

2025 年度 東京都立大学大学院 人間健康科学研究科
博士前期課程 入学試験問題 (冬季) 看護科学域 筆記 (専門)
出題の意図

問題 1. 看護倫理・管理学分野

看護組織で一般的に行われる配置転換・部署異動に関し、その利点と課題及び具体的なマネジメント実践について、自身の考えを説明する力を評価するために出題した。

問題 2. リプロダクティブヘルス看護学分野

親への移行期にある女性の特徴と支援の意義に関する基礎的な知識や理解を問うとともに、論述力を評価するために出題した。

問題 3. 小児看護学分野

小児看護学分野で学修するために、子どもの発達に関する基本的な知識を有し、人に説明できる力、さらに常日頃から子どもに関わる事象に関心をもち、子どもが健やかに育つ上での課題に気づき、論じる力を評価するために出題した。

問題 4. 成人看護学分野

成人看護学の領域で学修するために、身につけているべき専門基礎知識を有していることを確認する。また、自身の実践を言語化して文章でわかりやすく第三者に伝える基本的な能力、理論を活用して実践を分析する能力、これらを論理的に記述する力を評価するために出題した。

問題 5. 療養生活看護学分野

日本は、高齢多死社会となり、世界においても高齢化が進んでいる。高齢者の死期は、老衰や肺炎等、不明瞭な場合があり、本人の判断力の低下により、よりよい最後を迎えるためには、様々な課題がある。こうした重要な課題への問題意識、説明力を評価するために出題した。

問題 6. 地域精神看護学分野

日本の精神科医療機関における多職種連携の現状について、法制度や疾患・障害特性を踏まえ現状を分析的に思考できる能力、現状から課題を抽出する能力、課題に対して現実的かつ豊かな想像力で対策を導き出す問題解決能力を評価するために出題した。

問題 7. 在宅看護学分野

在宅看護学分野のトピックスに関する知識の有無だけではなく、そのトピックスの在宅看護分野における意義を考える力、出題の文章に示されている内容を正しく読み取る力や自分の考えを論理的に記述する力を評価するために出題した。

問題 8. 国際看護/医療人類学分野

他国ではじまった「社会的処方」という新たな取り組みが日本において導入された場合、どのような課題があるかを想定することは、学術的な思考を問う内容であり、国際看護/医療人類学領域において重要である。自文化以外の国の概要を理解した上で、グローバル化する現代においてどのようなことが問題とされ、どのような課題があるのかについて、創造的にものごとをとらえる能力と、論理的に述べる能力を評価するために出題した。

問題 9. 公衆衛生看護学分野

基礎教育や実践での経験等の学習を統合して論理的に思考する基礎的な能力が必要である。そのため、課題を正確に理解する能力、基本的な知識を統合する能力、論理的思考力、文章表現力を評価するために出題した。

問題 10. 助産学分野

多胎児の割合が増加から横ばいの傾向にあることを理解し、多胎児を妊娠中の女性が抱える健康問題について、心理・社会・身体面から、その背景や要因を踏まえて論述できる能力、述べた問題に対して予防的な助産ケアについて論述できる能力を評価するために出題した。